

(別紙2)

2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム春日苑田尻

作成日 令和 2年 2月 4日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	No. 1	理念と共有の実践について事業所内の掲示やパンフレットへの掲載を行っているものの職員への周知が不十分である。	事業所の理念を職員に周知、共有し実践を行う。	掲示だけでなく会議の中で理念の周知の徹底、理念の実践に向けての話し合いを行う。	12ヶ月
2	No. 6	身体拘束をしないケアの実践について現状施設では身体拘束はないが不適切ケア（入居者を～ちゃんと呼んだり、食事時配膳した後に刻みを行ったり等）の意識が希薄である。	各職員が不適切ケアについて意識し職員同士で注意しあう関係性をつくる。	不適切ケアの掲示は行っているが意識付けができておらず研修や会議を通して職員同士が注意しあえる職場環境を整えていく。	12ヶ月
3	No. 35	災害対策について災害マニュアルや夜間を想定しての避難訓練、事業所の備蓄品、また地域との協力体制が不十分である。	災害対策の整備、また地域との協力体制を築いていく。	運営推進会議等を通じて地域との協力を仰ぎ、避難計画に沿って訓練やマニュアルの整備、また備蓄品の補充見直しを行う。	12ヶ月
4	No. 36	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーについて、排泄時、介助や見守りの必要な方が多いが入居者様に対しての配慮が薄れていることがある。	入居者様の尊厳、プライバシーに配慮した排泄介助を行う。	研修や会議を通して不適切なケアを改善するとともにプライバシーに関わるマニュアルを整備していく。	6ヶ月
5	No. 2	事業所と地域との付き合いについて認知症カフェやラントモ参加、秋祭りでの櫓の来苑などで関わりを持っているが日常的な交流までは図れていない。	入居者様が地域とつながりながら暮らし続けられるよう事業所が地域の一員として日常的に交流する。	地域の行事等に積極的に参加していく。また事業所の行事にも参加していただけるよう勧める。	12ヶ月
6	No. 33	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援について家族様に対しては「看取りに関する指針」により説明し同意いただいているが看取りを経験していない職員も多い。	看取りに対し全職員の不安を軽減し統一した関わりを行うことができる。	看取りに関する研修や勉強会を実施し新たにマニュアルの整備を行う。	12ヶ月
7	No. 40	食事を楽しむことの支援について、能力の低下からミキサー食や刻み食の入居者様が多くなり食事中に刻むことがあった。	食事を楽しんでいただく。	配膳前に入居者様各々に合った食事形態にしておき、献立も入居者様の意見を聞き好みのものを取り入れていく。	6ヶ月
8	No. 49	日常的な外出支援について、入居者様の介護度の上昇に伴い頻度が減っている。	外出機会を増やす。	個別の外出が増えるようシフトを工夫する。	12ヶ月

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。